

武汉大学留学報告

February 22nd – March 30th 2016



m121071 高橋光一郎

1. 留学概要

日程：2016年2月22日～3月30日（38日間）

派遣先：武漢大学医学部（中国湖北省武漢市）

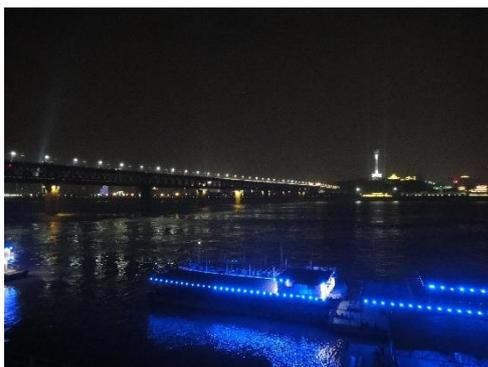
派遣者：高橋光一郎

2. はじめに

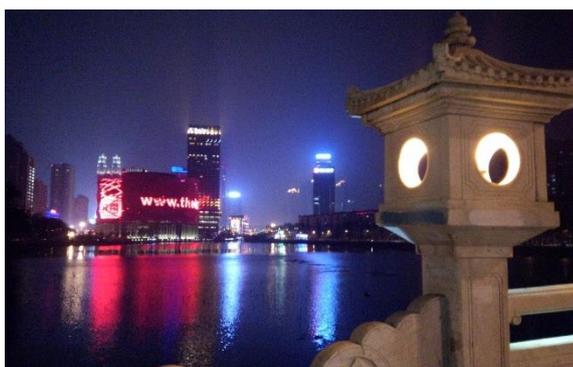
今回、中国・武漢大学に留学させていただきました高橋光一郎です。中国での生活は毎日が非常に刺激的なものであり、今までに経験したことのないようなことを数多く経験することができました。この報告書を通して、読んでくださる皆様にそうした経験を少しでも多く伝えることができればと思います。

3. 武漢と武漢大学について

今回留学させていただいた武漢大学は中国湖北省武漢にあります。武漢は中国のほぼ中央、長江沿いに位置しており、南北・東西方向の高速鉄道が交差する交通の要所です。また、武漢は長江を挟んで大きく武昌、漢口、漢陽の3つの街に分かれており、人口は1034万人と東京23区よりも多い人口を有する街です。また、武漢市内には李白の詩にも登場する黄鶴楼があったり、武漢市から1時間程のところには三国志で有名な赤壁古戦場があったりと歴史的な名所も多い街です。



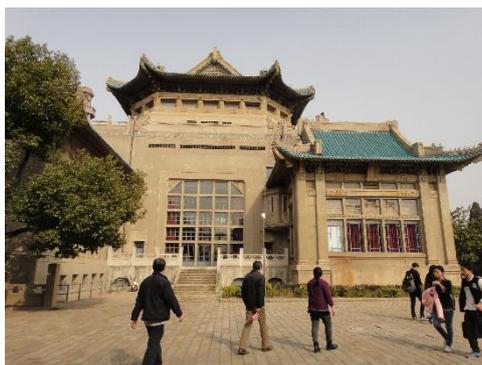
武漢を流れる長江



大学に隣接する東湖と漢街



武漢大学正門



武漢大学には歴史的な建物も多くある

武漢大学は1893年に設立され、1923年に国立武漢大学となりました。中国教育部より国家重点総合大学に指定されている名門大学でもあります。人文科学学部、社会科学学部、理学部、工学部、情報科学学部、医学部と大きく6つの学部に分かれており、学生数は約48000名と非常に大きな大学です。またメインキャンパスは中国でも有数の桜の名所であり、3月中旬、桜が満開になるころには学内入場規制がかかるほど、非常に多くの人が訪れます。

そのメインキャンパスから数kmほど離れたところに武漢大学の医学部キャンパスがあります。武漢大学医学部は2000年に前身の湖北医科大学が武漢大学と合併したことで誕生しました。福島県立医科大学はその前身の湖北医科大学と1996年に協定を結んでおり、今年ちょうど20年目の節目に当たります。武漢大学医学部には、基礎医学院、第一臨床学院、第二臨床学院、口腔医学院、薬学院、公共衛生学院、HOPE看護学院、医学技術学院の8つの学院があり、計4700名ほどの学生が学んでいます。

また、東南アジア、南アジア、中東、アフリカ、欧米諸国など世界中から多くの学生が留学しており、学生の20~30%ほどは留学生となっています。



医学部キャンパス入口
の毛沢東像

4. 講座について

今回の留学で、私は公共衛生学院のHe教授の講座に配属となりました。He教授の講座は公衆衛生の中でも主に栄養や肥満に関する分野に焦点を当てた講座でした。He教授の講座には5名の大学院生がおり、Wang教授の講座の大学院生7名と共に、LabでPCRやWestern blottingなどを行っており、私もそのLabで1日の大半を過ごしてしまし



講座の研究室内の様子

た。日本では一般的に公衆衛生というと調査や統計学的なことをイメージしがちですが、この講座では肥満ラットや飢餓ラットの運動負荷の実験なども行っており、そうした実験で得られたデータを教授や別の院生が解析しているとのことでした。He教授によると、中国では公衆衛生には実験と統計・調査の両面から研究することが多いとのことでした。この点は日本とはやや違う面もあり、非常に興味深いものでした。

5. 研究内容について

今回の留学では前述の通り、公衆衛生学講座に配属となりました。当初の予定では、医療従事者のメンタルヘルスについて調べる予定で留学前から準備を進めていましたが、中国の医療従事者を対象に調査をするには留学期間を考えると短すぎるという意見を多くいただいたこと、前述の通り、配属された講座が栄養や肥満を中心に研究している講座であったことから、学生の食習慣と健康の関係について調査することになりました。この調査をすることになった背景としては、中国での食事ではほとんど油を大量に使っていないものがなかったこと、学生食堂の食事に満足している人がほとんどいないように感じたこと、食品の安全性を気にしている学生が実際にどれくらいいるのか知りたかったことなどが挙げられます。

調査は以下のスケジュールで行いました。

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|-----------------|--------------|-----------------|----|----|----|
| 2/22 出国 | 23 挨拶 | 24 研究内容検討 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 調査票作成 | 3/1 ・翻訳(日→英) | 2 | 3 調査票翻訳(英→中) | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 調査票配布 | 9 ・回収 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 データ入力 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 データ解析 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 データ解析 | 29 | 30 帰国 | | | | |

調査の方法としては、内閣府食育推進室により実施された「大学生の食に関する実態・意識調査」の調査票を参考に作成した無記名自記式調査票を配布しました。対象は武漢大学医学部の学生 200 名であり、188 名 (94%) より回答を得ることができました。

回収された調査票のデータは Epidata というソフトウェアを用いてデータ入力を行い、SPSS を使い、データ解析を行いました。現時点では、「朝食を食べる学生ほど、食生活に対する満足度が高い」、「栄養バランスを

有关饮食习惯的问卷调查

该调查的目的是为了研究您的饮食习惯和健康之间的关联。我们通过调查搜集来的信息将被作为您的个人信息而不会被泄露。

问题 1

你经常吃早餐吗？请从以下选项中选择一项。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 几乎每天都吃 | → 跳至问题 2. |
| 2. 一周两到三天不吃早餐 | → 跳至附加问题 1. |
| 3. 一周四到五天不吃早餐 | → 跳至附加问题 1. |
| 4. 很少吃早餐 | → 跳至附加问题 1. |

附加问题 1

请说明为什么不吃早餐？请从以下选项中选择所有符合你情况的选项。

1. 因为我没有食欲。
2. 因为我不想长胖。
3. 因为我不想为了早饭浪费时间。
4. 因为吃早餐是一件麻烦的事情。
5. 因为准备早餐和做早餐是一件很麻烦的事情。

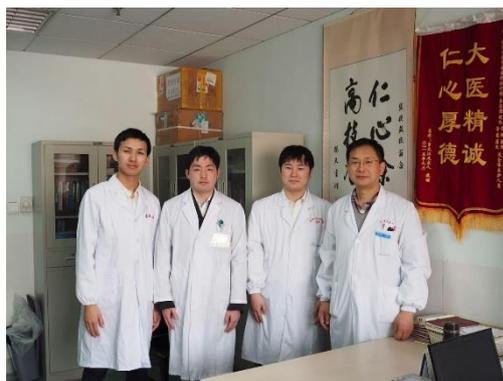
実際に用いた調査票の一部

気にしている学生や食生活に対する満足度が高い学生ほど、自分が身体的にも精神的にも健康だと感じている」、「食事による健康への影響や食品の安全性など食に対する不安は女子学生の方が抱いている」、「90%以上の学生が18時までには食事を済ませている」などの結果が得られています。なお、得られたデータ解析は今後も続けていく予定です。また、今後福島県立医科大学の学生に対しても同様の調査を行い、日中間の学生での食習慣の差異についても調査する予定です。

6. 中国の医療事情

今回の留学では、講座での研究以外に、武漢大学医学部の附属病院である中南病院を見学する機会がありました。初日には脳外科、神経内科、小児科の各病棟とEBMセンターを見学しました。EBMについては日本でも最近取り上げられてきていますが、専門のセンターを設けて、多くの論文を書くなどしており、より具体的にEBMの面から医療にアプローチしているのが印象的でした。

また2週目には、初日よりも時間をかけて脳外科を見学することができました。まず、朝のカンファレンスに参加し、その後、回診に同行させてもらいました。また、回診後には小脳膠芽腫の摘出手術を見学し、実際に内視鏡を覗かせてもらう機会もありました。実際に病棟や手術の様子を見て、日本とは違うところをいくつか垣間見ることができました。



脳外科学講座教授の張先生と



手術見学後に

いくつか例を挙げると、まず、複数の患者さんがいる部屋でも他の患者さんとの間にカーテンなどの仕切りがなかったり、患者さんのお見舞いに来ている家族が休む場所がなく廊下で休んでいる人が多くいたり、医療を提供する側の配慮がやや足りないという印象を受けました。また衛生面については、手術前の手洗いやガウン・手袋の装着の際の清潔操作が不十分であったり、ガウンがdisposalでなかったりといった課題も見られました。しかしながら、CT

やMRIなど医療機器類は充実しており、ここ数年でハード面は大分よくなってきているとのことでした。実際に日本に行かれたことのある先生方もハード面は良くなってきているがソフト面はまだまだ改善の余地があるとおっしゃっていました。また、中国では医師の給与が日本に比べ大幅に低いのも驚きでした。

このように日本では見られないような課題も多くみられましたが、医師が忙しくてなかなか休息が取れない、患者さんが大病院に集中するため、待ち時間が長くなり、十分な診療時間を取ることができないといった日本と共通の課題もみられました。

7. 授業

講座での研究や病院見学に加え、中国人学生の授業、留学生クラスの授業の双方に参加する機会もありました。中国人学生も留学生も授業は福島医大ほど多くないようでした。ただその分、日本の学生と比べると授業にはどの学生も積極的に参加しているという印象を受けました。

| Period | Time | Monday | Tuesday | Wednesday | Thursday | Friday |
|--------|---------------|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------|
| 1 | 08.00 - 08.45 | | Community Medicine (1-14w) 602 | | | Diagnostics (1-18w) 602 |
| 2 | 08.50 - 09.35 | | | | | |
| 3 | 09.50 - 10.35 | | Internal Medicine 1 (1-18w) 602 | | Radology (1-9w) 602 | Community Medicine (1-14w) 602 |
| 4 | 10.40 - 11.25 | | | | Diagnostics (10-18w) 602 | |
| 5 | 11.30 - 12.15 | | | | | |
| | 12.15 - 14.05 | LUNCH BREAK | | | | |
| 6 | 14.05 - 14.50 | General Surgery 1 (1-18w) 602 | Diagnostics (1-18w) 602 | Clinical Medical Chinese 1 (1-15w) 521 | Internal Medicine 1 (1-18w) 602 | |
| 7 | 14.55 - 15.40 | | | | | |
| 8 | 15.45 - 16.30 | Radology (1-9w) 602 | | General Surgery 1 (1-18w) 602 | Clinical Medical Chinese 1 (1-15w) 521 | |
| 9 | 16.40 - 17.25 | | | | | |

授業中に学生が先生に積極的に質問して

留学生クラス 3 年生の時間割

おり、授業中に寝ている人は見受けられませんでした。こうした授業に臨む態度は自分を含め日本の学生も学ぶ必要があるのではないかと思います。また、中国人向けの英語の授業に参加する機会がありましたが、先生も含め、授業中の会話は英語のみで行うという形式で行われており、こうしたところも日本は取り入れていく必要があると感じました。

8. 中国での生活

・学生寮

中国滞在中は医学部キャンパス内にある「迎賓楼」という海外からの学生専用のホテルに泊まりました。迎賓楼は 2 人部屋で、一部壊れて使えないものもありましたが、室内にテレビ、冷蔵庫、ポット、一部の部屋には洗濯機などもあり、Wifi もつながりました。ほとんどすべての学生がキャンパス内にある寮に住んでいますが、この迎賓楼はその中でも一番設備が整っており、一般の中国人学生の寮は十数人が同じ部屋で暮らしており、とても大変だということでした。

・学生食堂

学生食堂は第一食堂と第二食堂の 2 つの食堂がありました。どちらの食堂でも 1 階では中華料理が並んでおり、まずご飯をよそってもらい、その後、好きな料理を指さして注文するというシステムでした。ご飯は 100g で 12 円という安さで、おかずもそれほど高くないため、1 食 100 円程度で済ませることができました。



学生食堂での食事

また、第二食堂の2階は清真食堂（イスラム食堂）となっており、豚肉や牛肉を使っていない料理が並んでいました。これは、武漢大学の医学部には中国西部、インド、中東から来ている学生には宗教上の理由で豚肉や牛肉が食べられない人が多いため、こうした配慮は日本よりも進んでいると感じました。

・週末

今回の留学では、中国人学生や留学生の友人、先生方などたくさんの素晴らしい方々にお世話になり、恵まれた環境でした。平日の放課後にはバドミントンや卓球をしたり、日本と中国の関係について話したりし、おいしい中華料理屋に連れて行っていただいたりしました。また週末には、先生に戸部巻、黄鹤楼、漢口、武漢動物園を案内していただきましたし、学生はメインキャンパス、戸部巻、イオンモールなどに連れていってくれたり、映画館やカラオケ、バーへ誘ってもらったりしただけではなく、赤壁や西安にも連れていってもらい、とても楽しい時間を過ごすことができました。



昨年福島にいらした Dai 先生などと



Feng 先生と長江沿いにて



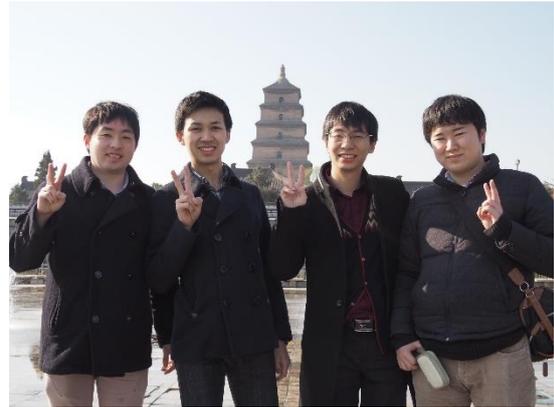
タイ、シンガポールなどの留学生と



湯田くんの誕生日に中国の学生と



三国志の舞台、赤壁にて



西安のシンボル、大雁塔にて

・中国の人々の生活

中国での滞在中、やはり気になったのは大気汚染と交通事情でした。

大気汚染については日によってまちまちであり、日本と変わらないような日もあれば、わずか百メートルほど先の建物がかすんで見える日もありました。特に武漢は大都市であるため、大気汚染が田舎に比べるとやや深刻とのことでした。しかし、現地の人は大気汚染は気にはなっているものの、マスクをつけることはあまりないとのことでした。マスクをつけていると外国人だと思われるそうです。

交通事情も例えば、原付のような電動バイクは免許なしで運転できたり、車であっても赤信号時に右折できたりと、日本とは大きく異なっていました。また、車の運転もやや荒く、日本人にはとても運転できないと感じました。



大学構内で焼き芋を売るおじいさん

しかし、中国はそのような問題も抱えていますが、焼き芋を露店で売るおじいさんがいたり、ご近所同士がお話をしながら夕食を作ったりと日本人にとっては懐かしいような光景や屋台から威勢の良い呼びかけが聞こえ活気がある光景は日本ではなかなか見られなくなってきているものであり、これは中国人も言っていました、昭和の日本を見ているような気分でした。

9. 日本人が中国人から学ぶべきこと

滞在中、中国人の人たちには何度も「中国は日本から多くのことを学ばなければいけない」と言われ、確かに日本が中国のために協力できることもいろいろあると感じましたが、それと同時に日本も中国から学ぶべきところが多くあると、この滞在を通して感じることも幾度もありました。

特に学ぶべきだと感じたのが、人々のハングリー精神や向上心です。中国の人たちはみな、常に高い目標を設定し、その目標に向かって努力するという姿勢が日本人よりもかなりはっきりしていました。アメリカの有名大学へと進学することが決定している人や、日本で医師になるために日本語を一生懸命勉強している人など、目標を達成するために自分から積極的に行動している人が非常にたくさんいたのも印象的でした。

また、日本はどうしても環境がいいため、日本人は日本のいい面ばかりを見ているところがあると思います（もちろんそうすることで自信を持つことも大事だと思います）が、中国のように自分の弱いところをきちんと見つめ、いいところはどんどんと学んで自分のものにしていこうという姿勢は日本も学ぶべきなのではないかと感じました。

10. おわりに

今回、中国で過ごした 38 日間はここには書ききれないほど非常に密度の濃い、充実したものでした。中国という日本とは全く異なる環境に身を置くことで、多くのことを学んだだけでなく、日本にいただけではなかなか見えてこない日本や自分自身の良いところや悪いところを発見し、見つめ直す機会にもなりました。また、中国の価値観や考え方に驚愕することもありましたが、逆のことをいえば、日本の価値観や考え方も海外の人にとって見れば驚きであることもあると思います。そうした相違点を明確にしていき、乗り越えていくことが今後の課題でもあり、道が開ける鍵でもあると思います。そうしたことを実感することができたことが今回の留学における一番の収穫であったのではないかと感じています。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい留学のためにご尽力頂きました、関根先生、永福先生、國分様を初めとする先生方、企画財務課、教育研修支援課の方々、**Professor He, Professor Zhang, Mrs. Wang** を初めとする武漢大学の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。